

(社) 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第3回 放射性廃棄物管理分科会 (F2SC) 議事録

1. 日時 平成12年 7月24日 (水) 13:30~16:30

2. 場所 日本原子力研究所 第6会議室

3. 出席者 (敬称略)

(出席委員) 森山 (主査), 小川 (副主査), 藤原 (幹事), 出光, 上田, 馬原, 大江, 苅込, 坂下, 佐々木, 武部, 豊原, 本山, 山本, 油井, 吉田 (16名)

(事務局) 太田, 市園

4. 配付資料

F2SC3-1 第2回 放射性廃棄物管理分科会議事録 (案)

F2SC3-2 標準委員会の活動状況について

F2SC3-3 分配係数の標準化の進め方について (案)

F2SC3-4-1 分配係数測定の標準化検討範囲とニーズ (概要)

F2SC3-4-2 分配係数測定の標準化のニーズについて

参考資料

F2SC3-参考1 標準委員会の活動基本方針

F2SC3-参考2 原子燃料サイクル専門部会の活動方針

F2SC3-参考3 標準委員会等の開催予定と実績

5. 議事

(1) 出席委員の確認

事務局より、出席者の確認の結果、16名の委員全員の出席があり、決議に必要な委員数(8名以上)を満足している旨の報告があった。

(2) 前回議事録の確認

事務局より前回議事録の確認を行ったところ、記載表現等見直しが必要との意見があり、別途確認を行うこととなった。(F2SC3-1)

(3) 活動状況報告

事務局より標準委員会等の活動状況の報告があり議論が行われた。主な意見を以下に示す。(F2SC3-2)

- ・ 専門部会、標準委員会への報告内容は事前に委員の確認を受けること。
- ・ 報告内容はキーワード中心とし、簡潔に行うことが好ましい。

(4) 分配係数の標準化の進め方について

藤原幹事より前回資料を見直し、分担案、スケジュール及び参考資料について説明があり議論が行われた。その結果、本文及び付録(解説)の項目と分担案を作成し、各委員の確認を経て、具体的作業にはいることとなった。また、年内に第1ドラフト作成を目途とし、中間段階で分科会を開催する方向で調整を進めることが確認された。主な意見を以下に示す。(F2SC3-3)

- ・ 分配係数は、浅地と深地、ベントナイトと岩などの処分環境により取り扱い方等が異なってくる。前提条件を明確にすべきである。
 - ・ 測定方法と測定対象物の関係が存在するのではないか。両者を整理し、適用範囲を検討したい。
- ・ 標準全体をバッチ法としての構成とし、他の方法は、付録、解説に記載する方法もある。
- ・ 標準化の可否は環境条件をどこまで取り込むかにより違ってくる。可能な範囲から標準化を図っても良いのではないか。
- ・ 成果物について学会バックエンド部会によるレビュー等を御願ひしても良いのではないか。また、解説に背景等を詳しく書くことを意図してまずは報告書の形式としてまとめる。
- ・ 遅延係数は、分配係数と異なる部分もある。本来、遅延係数を求めたいところもあるが、まずは分配係数の標準化を行うこととしたい。
 - ・ サンプルングについては、測定方法に材料のキャラクタリゼーションの項を設けて明確にする。
- ・ 標準としては、海外へも通用するものとすべきであり、引用文献についても英文を意識してほしい。英文でないものは、学会、部会へ英文での投稿を求めている。

(5) 標準化のニーズについて

佐々木委員より説明があり議論が行われた。主な意見を以下に示す。(F2SC3-4-1, F2SC3-4-2)

- ・ 得られた数値をどのように適用するかに偏っているところもあり、一般的なニーズも考慮する必要がある。

- ・ 標準の骨格を示して議論した上で現場のニーズを検討したい。ただし、全ての期待に応えられることはできない可能性がある。

(6) 今後の予定

第4回分科会を9月25日、10月2日の週の中から委員の都合を事務局にて確認の後、別途連絡することとした。

以上